

## 1

次のそれぞれの文の——線部の、漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字で書いて答えなさい。

- (1) 一代で会社を築く。
- (2) 友人に判断を委ねる。
- (3) 商品の金額を提示する。
- (4) その本は絶版になった。
- (5) 小さな子どもがアばれる。
- (6) 生死のサカイをさまよう。
- (7) 検査結果をホウコクする。
- (8) キュウキュウシヤで運ばれる。

## 2

次のそれぞれの問いに答えなさい。

- (1) 次の①～⑥の二字熟語の組み立てとして最もふさわしいものを、それぞれあとから選び、記号で答えなさい。
  - ① 再開
  - ② 市立
  - ③ 断続
  - ④ 着席
  - ⑤ 体重
  - ⑥ 道路
- ア 上と下が似た意味になっている組み立て。
- イ 上と下が反対または対の意味になっている組み立て。
- ウ 上が下を修飾している(くわしくしている)組み立て。
- エ 上が主語、下が述語になっている組み立て。
- オ 下から上へ読むと、意味がわかる組み立て。

(2) 次の①～④のことばを( )の漢字を用いて書いたときの送りがなを、それぞれひらがなで書いて答えなさい。

- ① おこなう(行)
  - ② こころみる(試)
  - ③ うまれる(産)
  - ④ まじわる(交)
- (3) 次の①～④の文についての説明として最もふさわしいものを、それぞれあとから選び、記号で答えなさい。
    - ① 弟はサッカーが好きで、兄は野球が好きだ。
    - ② 大きな犬を連れた人が前から歩いてきた。
    - ③ 君がけたボールは川に落ちてしまった。
    - ④ とても美しい、ことばにならないほどに。
  - ア 文全体の主語が省略されている。
  - イ 文全体の述語が省略されている。
  - ウ 主語と述語が一つずつある。
  - エ 述語が先にあり、その主語がある。
  - オ 主語と述語の組み合わせが二つあり、それらが意味の上で対等の関係になっている。
  - カ 主語と述語の組み合わせが二つあり、それらが意味の上で対等の関係になっていない。

## 3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

《「私」は、アラスカで活動していた写真家です。》

野生のオオカミと出会ったことがある。

オオカミについては、<sup>①</sup>物語上の\*架空の生き物という\*潜在意識が私にはある。

初めて実在の気配を感じたのは、アラスカに移り住み、何年かしてからの秋だった。山の中でかすかな遠吠えを聞いたのだ。子どもの頃、<sup>②</sup>デイズニーやシートンの世界で想像した生き物が、姿こそ見せないがどこかにいた。

それから数年して、オオカミは私の前に姿を現した。巣穴が近かったのだ。黒と灰色の二頭のオオカミは、\*稜線上に現れ、私を見つめていた。ザツクをおろし、写真を撮ろうと思った時、オオカミはすでに消えていた。その翌日、巣穴を見つけた。昨日まで、ここで子どもを育てていたに違いない。巣穴はもぬけの空だった。まわりに残されたオオカミの足跡に、私の山靴の跡が交錯した。彼らの世界に、私は土足で踏みこんでいたのだ。初めてのオオカミとの出会いには、

<sup>③</sup>苦い思い出だけが残った。

そして昨年の夏、不思議な体験をした。その夜、私は\*白夜のマツキンレー山を撮影していた。この時期、\*極北の太陽は沈まない。マツキンレー山の残照は、もうそのまま朝焼けだった。撮影が終わり、コーヒーを沸かしていた私は、何かの視線を感じた。気がつく、十メートルも離れていない場所で、オオカミが私を見つめている。信じられない気持ちのまま、私はカメラに一〇〇ミリのレンズをつけ、シャッターを切った。背後には、朝焼けのマツキンレー山がそびえてい

た。

アラスカでは<sup>④</sup>このころ、オオカミをめぐる大きな論争が巻き起こっていた。<sup>⑤</sup>ムースの\*ポピュレーションが減少している事態に對し、アラスカ野生生物局がオオカミを殺し始めたのだ。十分な調査がされないまま、とりあえずオオカミを減らすことよって、ムースの状況をみようということだ。アメリカの他の州でもそうだった。悪者はいつてもオオカミなのである。繰り返されてきたオオカミの歴史が、最後に残された土地、アラスカでまた始まった。

<sup>⑥</sup>オオカミのもつこの悪魔のイメージは、いかにしてつくられたのだろうか。それは、人間の経済的利益と対立してきた歴史からくるのだろう。アメリカの開拓史上、かつて合衆国全域を覆っていたパイソンが乱獲により消えてゆくにつれ、人間とオオカミの対立が深まっていた。食物のなくなったオオカミが、家畜を襲い始めたからだ。人間に害を与えるさまざまな現象の\*シンボルとして扱われてきたオオカミの伝説は復活し、人間は狂ったようにこの動物を殺し続けた。オオカミがこの土地から消え去るのに、多くの時間は要らなかった。「三匹のこぶた」、「赤ずきんちゃん」の中のつくられたオオカミのイメージは、現在もお生き続けている。

アラスカの人々にとって、狩猟は生活の一部として切り離せない。ムースはその中でも一番欲しい肉であった。州の行政機関であるアラスカ野生生物局は、その予算の大部分を狩猟の\*ライセンス料でなりたたせている。当然ハンターからの圧力が強く、とにかくムースの数を増やさなければならなかったのだろう。その後の調査が進む中で、皮肉なことに、ムースのポピュレーションを左右しているのは、オオカミではなくてグリズリーであることが判ってきた。すでに多くのオ

オカミが殺されていた。

私たちの生活の中で、一つの大切なことは、人間をとりまく生物の多様性だろう。一生の中で、オオカミに出会う人はまずいないし、それはどうでもいいことだ。けれどもどこかにそんな世界があるということ、それを意識できることは大切なことだ。それはもちろんオオカミに限ったことではない。私たちの日々の生活と直接関わることのない、たくさんの世界、現象、それが存在すると意識できることは、とても大切なことだ。

多様性、それは決して生物の世界にとどまらず、人間社会の中における文化の多様性にもあてはめることができる。それは私たちの考え方を刺激し、思考に豊かさや選択の機会を与えてくれる。時には私たちの中に存在する、いろいろな問題を解決するための方向性を与えてくれるかもしれない。健康を維持してゆくためにいろいろな食べ物が必要なように、同じことが精神の健康にも必要なのだろう。

一部の人間、民族、あるいは一つの種の価値観をもって、異なるものの存在を脅かしてゆく方向は、いつしかそれ自身が袋小路へと追いつめられてゆくに違いない。

生物の多様性の存在は、まず私たち自身をほっとさせる。そして、私たちが誰なのかを教え続けてくれる。違うものの存在を認めるということ。あの夜、私を見つけていたオオカミのまなざしがそれを語りかけ、教えてくれたような気がする。

### 〈星野道夫「オオカミのこと」より〉

©JIKS14

(注) 架空Ⅱ想像によってつくりあげること。

潜在意識Ⅱ自分では意識しないが、その人の行動などに影

響をあたえている心の働き。

稜線Ⅱ山の峰と峰を結ぶ線。

白夜Ⅱ南極や北極に近い地方で、真夜中でも日がしずまない現象。

極北Ⅱ北極に近いところ。

ポピュレーションⅡ個体数。

シンボルⅡたとえば、ハトで平和を表現するといったように、形のないものを何かになぞらえて表したものを。

ライセンス料Ⅱ何かをすることについて許可をもらうときに、許可を得る者が払う金銭のこと。

(1) 線①「物語上の架空の生き物」とありますが、「私」がオオカミを想像していた物語上の架空の世界とは、具体的にどのような世界ですか。最もふさわしいことは本文中から十三字で書きぬいて答えなさい。

(2) 線②「苦い思い出」とありますが、「私」がこのときのことを「苦い思い出」だと感じているのはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の準備が足りていなかったことで、オオカミを間近で撮影するという機会をみすみすのがしてしまったから。

イ 人間にとって危険なオオカミと遭遇したのに、にげようともせずにのん気にかメラを構えようとしていたから。

ウ 自分が何も考えずにオオカミの縄張りに入ったことで、子育て中のオオカミを追いついてしまふ結果になったから。

エ オオカミの巣穴をしつこく探し続けた結果、人間に恐怖を感じ

じたオオカミが巣穴をすててにげ出したから。

- (3) — 線③ 「このころ」とは、マツキンレー山で「私」が何を体験したところですか。「私」が、<sup>く</sup>体験をしたところ。」という形で、二十五字以内(句読点や符号も字数に数えます)で書いて答えなさい。

(4) — 線④ 「ムースのポピュレーションが減少している事態に対し、アラスカ野生生物局がオオカミを殺し始めたのだ」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

- ① アラスカ野生生物局がこのような対応をしたのはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ムースのポピュレーションが減少した要因は複雑にからみあっている有効な対策がないため、ひとまずイメージの悪いオオカミを殺すことでハンターを落ち着かせたかったから。

イ これまでアメリカではオオカミを殺すことで自然のバランスを保ってきたため、ハンターからオオカミを殺すように求められたから。

ウ アラスカ野生生物局にとって重要な存在であるハンターから圧力がかかったため、正しいかどうかは二の次で行動に移さなければならなかったから。

エ ムースの数が減り狩猟の機会が失われたことにいら立つハンターたちに、オオカミを狩<sup>か</sup>つてもらうことで気晴らしをさせようと考えたから。

- ② ムースのポピュレーションが減少した原因はオオカミではなく何でしたか。最もふさわしいことを本文中から五字で書きぬい

て答えなさい。

- (5) — 線⑤ 「オオカミのもつこの悪魔のイメージは、いかにしてつくられたのだろうか」とありますが、オオカミが悪魔のイメージをもつようになった出来事を説明した次の文の□に入る最もふさわしいことばを、それぞれ本文中から、①は四字、②は二字で書きぬいて答えなさい。

〈乱獲によって消えた□①に代わる食物として、オオカミが□②を食べ始め、人間の経済活動に損害をあたえたこと。〉

- (6) 本文中の「私」の思いとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 生物に多様性があることで、自分とは異なる世界に生きるものやその生活を想像することができ、それが自分自身の理解へとつながっていくのだろう。

イ 生物に多様性があることで、自分の暮らしとは関係のない世界を知って思考に豊かさを持つことができ、それが人間のかかえるすべての問題を解決へと導くのだろう。

ウ 生物に多様性があることで、自分が知らない世界に実際に足を運んで、その世界を体験することができ、それが多様な考え方向へとつながっていくのだろう。

エ 生物に多様性があることで、自分が今暮らしている世界が当たり前ではないと気づくことができ、日々の暮らしに対して感謝する気持ちが生まれるのだろう。

## 4

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

失敗自体と、きみの人間性は別物です。

失敗は、「きみはダメだ」ということではありません。「このやり方ではダメだよ」と教えてくれているのです。

失敗したからといって、自分を否定する必要はないんです。

「自分」と「行動」とを切り離して考える。

① 「自分が悪い」と思うと「自分はダメだ」と思ってしまいやすいですが、「この行動が悪い」のならば「次はやらない」ように気をつけなければいけません。

自分という人格の問題としてとらえるのではなく、「どこがよくなかったのか」「どうすればリカバーできる(取り戻せる)か」を具体的に考える。

現実を変えるための方法に集中することで、感情の波に揉まれる状況から自分を引きはがす。うまくいかなかったことにクヨクヨしているようなヒマをなくしてしまおうのです。

失敗後にやるべきことは、「これからの行動」に集中することです。

「どこがダメだったのか？」を検証し、やり方を修正して、再チャレンジする。

起きてしまったことを「心配」するのではなく、これからやるべきことを「工夫」することに力を注ぐ。

やり直してうまくいったら、前の失敗はもう失敗ではなくなります。失敗の経験が活きたということですから、それも成功するために必要なことだった、ということになるわけです。

再チャレンジしても失敗したら？

もちろんそういうこともあります。

うまくいかなかったら、さらに修正して、もう一度やってみればいだけ。

② うまくいくようになるまで、「トライ&エラー(Trial and Error)」を重ねるのみ。

トライ&エラーとは、成功への階段を一步ずつ上ることです。

だから、エラーがあってもがっかりすることはなくて、一步前に進めたことを喜んでいるのです。

「あの失敗のおかげで、間違いに気づけた」

「修正してやり直したら、うまくいった」

こういう経験を積んで、「失敗は必ず挽回できるもの」と思えるようになることが必要なのです。

失敗を新たな成功体験で「上書き」していくんですね。

これができると、「失敗しても大丈夫」という自信がきます。

1回失敗しただけで「傷ついた、こんな思いはもうイヤだ」ということになる、そのイヤな思いをぬぐい取ることができません。だから、引きずってしまうのです。

再チャレンジして、できるようになっていく喜び、うまくいったときの快感を味わうことで、失敗の\*ネガティブな記憶を帳消しにしなければいい。

③ \*兼好法師は『徒然草』でこう言っています。芸能を身につけよ

うとする人が、「うまくなつてから人前でやろう」と思っていると、一芸も身につけられない。へたでも、うまい人にまじり、笑われても恥じないで稽古をつづける人は、やがて上手になつていく。

「失敗したら、取り返しがない……」と思込んでいる人がい

ますが、取り返しがつかないような失敗とは「命」にかかわることだけ  
けです。

失敗して、死んでしまったらもうやり直せない。

自分の命にしても、他人の命にしても、命を危険にさらすことはし  
てはいけません。それ以外のことはやり直せます。

生きていて、前を向いて進むことをあきらめなかったら、何度でも  
やり直すことができます。

④ とはいえ、同じ失敗をいくらでもくり返していいということでは  
ありませんよ。

同じ失敗をくり返す人は、失敗をきちんと受け入れることができて  
いないのです。

たとえば、遅刻が多いとか、約束に遅れることが多い人、いますよ  
ね。

決まったルールが守れない、人との約束を守れないことは、失態で  
す。どんな理由があるにしても、守れないことには「非」があります。

それを「非」として認められる人は、謝って、次は気をつけよう  
とします。

※、遅れたことを自分の「非」と認めていない人は、できなか  
ったことの言い訳をします。

先ほど、「自分」と「行動」を切り離して考えよう、と言いました  
が、それを責任逃れのために使つてはいけません。

自分のどこに「非」があったのかを素直に認めることで、どこがい  
けなかったのか、どう修正したらいいのかがわかるのです。

⑤ 社会的に大事な地位についていながら、よく失言をしてしまう人  
がいます。不注意な言葉で、人を傷つけたり不快にさせたりしてしま

う。

何度も失言をするクセのある人の問題点は、自分の発言のどこがい  
けないのかの本質を理解していないところにあります。

「自分には、一方的な視点で人を傷つけるものの考え方をするクセ  
がある」ということを自覚し、そのクセを直そうという努力をしない  
と、また同じような失言をしてしまいます。

「よくないクセだから直そう」と心がければ直せますが、その意識  
がなければ、そのクセはいつまでたっても直りません。

せっかく失敗が教えてくれていることを活かすことができている  
学習していないということです。

「過ちを改めざる、是れを過ちと謂う」

『論語』にある、\*孔子の有名な言葉です。

間違えること自体は問題ではない、間違いに気づきながらやり方を  
改めようとしないうことが本場の過ちなのだ、と孔子先生は言っ  
ています。

失敗があっても、「よくないところを改めて、やり直す」ことがで  
きればいい。

間違いを改め、修正を利かせていく能力があればいいんです。  
失敗しないようにする能力なんていりません。

〈齋藤孝「本当の『心の強さ』ってなんだろう?」より〉

(注) ネガティブに消極的。否定的。

兼好法師「鎌倉時代末期から南北朝時代にかけて活躍した随

筆家、歌人。

孔子「古代中国の思想家」。

(1) 線●「自分が悪い」と思うと「自分はダメだ」と思ってしまいやすい」とありますが、このような感情にならないためにどうすることが必要だと筆者は説明していますか。最もふさわしいことばを本文中から十八字で探し、その最初と最後の五字を書きぬいて答えなさい。

(2) 線●「うまくいくようになるまで」「トライ&エラー(=試行and error)」を重ねるのみ」とありますが、トライ&エラーを重ねることによって、どのようなになると筆者は考えていますか。それを説明した次の文の□に入る最もふさわしいことばを、それぞれ本文中から、①は七字、②は五字で書きぬいて答えなさい。

〈失敗を□①で書きぬいてできると、失敗は必ず□②ものだと思えるようになる。〉

(3) 線●「兼好法師は『徒然草』でこう言っています」とありますが、筆者がここで『徒然草』の語を出した目的として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 失敗はさげようとしてさげられるものではないと示すため。  
イ 失敗することへの読者の心理的な負担をやわらげるため。

ウ 失敗から立ち直る方法を具体的に説明するため。

エ 兼好法師でさえ失敗することがあったことを紹介するため。

(4) 線●「とはいえ、同じ失敗をいくらでもくり返していいということではありませんよ」とありますが、同じ失敗をくり返す人にはどのような特徴があると筆者は考えていますか。それを説明した次の文の□に入る最もふさわしいことばを、それぞれ本文中から、①は十二字、②は四字で書きぬいて答えなさい。

〈同じ失敗をくり返す人は自分の「非」を認めずに□①を

して、□②をしようとする特徴がある。〉

(5) 線□に入る最もふさわしいことばを次から選び、記号で答えなさい。

ア なぜなら イ しかし

ウ つまり エ たとえば

(6) 線●「社会的に大事な地位についていながら、よく失言をしてしまう人がいます」とありますが、このような人にはどんなクセがありますか。最もふさわしいことばを本文中から二十四字で探し、その最初と最後の五字を書きぬいて答えなさい。

(7) 本文中の筆者の考えとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 失敗した原因を検証し、やり方を修正することで成功に近づくことができるのは確かだが、だからといって失敗を肯定的にとらえるのはよくない。

イ 失敗した経験は、次のチャレンジで必ず成功するために活かされるべきであり、失敗すればまた修正すればよいという考えはすてるべきだ。

ウ 失敗したことを後悔し、気持ちが悪く落ちこむ時間はあってもいいが、それが行き過ぎて自分自身をダメだと思うことは次のチャレンジへのさまたげになる。

エ 失敗した自分自身を否定するのではなく、失敗したやり方や行動を修正して、その失敗をくり返さないように失敗の経験を活かすことが大切だ。

